

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072400320		
法人名	社会福祉法人明筑会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	福岡県筑後市尾島510番地1 (電話) 0942(53)0040		
自己評価作成日	平成25年6月13日	評価結果確定日	平成25年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・グループホームひかりは同一敷地内に母体となる軽費老人ホーム船小屋荘があり恵まれた自然環境の中に位置している。
- ・広大な敷地の一角には花壇や、高台栽培ができる畑があり季節感と収穫の楽しみを味わうことができる。
- ・広いリビングからの眺めは地域の自然環境を見渡す事ができくつろぎの場所となっている。
- ・地域コミュニティの役割の集会室ではうた、お花、介護予防レク、習字などのクラブがあり講師や地域方と交流ができる。
- ・その人らしい生活支援を目標に、介護計画はセンター方式を活用しケアマネジメントをしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成25年7月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園の広がる住宅地に位置し、軽費老人ホームと同じ敷地に建てられた1ユニットのホームである。居室の外には、朝がおやごーやのグリーンカーテンで日よけを作るなど、居心地のよい空間づくりの工夫が至る所に見受けられる。センター方式を活用し利用者背景や意向の把握、日々の関わりから思いや希望を汲み取り、利用者の心の声に寄り添う支援が、理念にある通り実践されている。先日、103歳の方が亡くなられ、お好きだった「おてもやん」を流して利用者皆でお別れをするなど、最後まで利用者がその人らしく尊厳のある生活ができるホームである。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らしていくことが出来る様に理念を朝礼時に唱和し、日々意識し支援している	毎日の朝礼で理念を唱和し共有しており、「今月の取り組み目標」と題し、理念に沿った内容で主体的に楽しみのある生活を送れるよう支援を心がけている。また、カンファレンス時にも話し合う機会を持つようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が収穫された野菜を届けて下さったり、事業所の様々な行事にも招待をし、日常的に交流する機会づくりに努めている	法人主体の事業所便りを年4回発行し地域に回覧している。母体施設と海鮮バーベキューを開催したり、ドッグセラピーや出前寿司などを地域の協力で取り組んでいる。また、近隣の方から野菜をいただいたり、お茶を飲み立ち寄られるなど良い関係が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回法人で発行し地域にも配布する広報紙に認知症についての記事を書いたり小学生への介護授業を行っている	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で様々なテーマやサービス提供状況を報告し区長さんや地域の方々と意見交換を行っている	運営推進会議は定期的に行われており、会議中に避難訓練を行ったり、DVDで行事などの様子を映し出すなど、志向を凝らして工夫し地域の方に参加協力をいただいている。また、会議のテーマを決める時に虐待について学びたいとの希望が出た際は、虐待について地域包括支援センターの方に話をいただいた経緯がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を活用することや、市のグループホーム部会の定例会を市役所で行ったりし連携を図っている	日頃から、相談事などが発生したら行政へ随時連絡・相談している。市のグループホーム部会定例会を市役所にて行い、市からも参加がある。事業所便りを市役所・民生委員会・社協へ持っていき事業所の取り組みを報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来身体拘束についての勉強会も定期的に行ない玄関の施錠せずにオープンにしていた。しかし平成25年5月、新入居者が夜勤帯に居室窓より外へ出られたことが発生し、事故防止目的に外から施錠を短期間夜間のみ行なっている	日中は施錠をしておらず、玄関にチャイムを設置し敷地内に隣接している母体施設の軽費老人ホーム・厨房職員などと連携し、外出者を把握する体制ができている。また、母体施設での身体拘束に関する研修に参加し、伝達研修も行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的カンファレンスや法人全体の内部研修でもテーマにあげ、関連法についても学び、虐待防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の内部研修でテーマにあげ相談業務の内容を学ぶ機会をつくっている。しかし利用者で日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用されている方の経験はない	権利擁護に関する制度についての活用事例はまだないが、利用開始時や家族会にて権利擁護に関する制度の説明を行っている。職員は内部研修を行ったり、地域包括支援センターから講師を招き勉強会を実施している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時及び利用中の介護保険法改正に伴う改訂事項などは文面で説明し利用者代理人に同意を得ている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などを通じ意見を求めることができるようにし、意見については個人的なことではない内容については、回答は文章化し全員の家族に郵送している	管理者や職員は、利用者が日常的に希望や意見を伝えられるよう体制を整えている。年1回の家族会で出された意見を全家族へ郵送で報告している。「食事メニューを張り出してほしい」などの意見が出ており、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己申告書にも意見や要望を記入が出来る様な欄を設けるなどし、より良い運営に努めている	全職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。自己申告書を年2回提出してもらうなど職員の自己評価に取り組んでいる。また、職員の意見を参考にアセスメント表を作り替えたり、薬の仕分けなどは服薬チェック表を作成し活用している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規程は自由に見ることができるようになっている。また年に2回は自己申告書を記入し自己アピールもすることができるようにしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	基本的人権を尊重して採用し、キャリアパス制度についても明確にし、少しでもやりがいをもって働ける体制づくりが周知出来る様にしている	定年・退職等に差別なく誰もが安心して働ける環境を整えており、職員の採用の際には、管理者が面接などに立ち会い採用に関して意見が述べられる体制となっている。また、キャリアパス制度についても明確にしており、やりがいのある体制づくりを周知している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的カンファレンスでテーマにあげ利用者の尊厳や意思の尊重について学び啓発活動に努めている	定期的に行われるカンファレンスにてテーマとして取り上げ、利用者の尊厳や意思の尊重について学び、人権の啓発活動を行っている。また、年間計画において内部研修を行い、伝達研修にて全職員へ伝わるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は基本的に全員参加し年10回開催している。また外部研修にはキャリアや、研修内容に応じどの職員にも積極的に参加する機会を確保できるようにしている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市内のグループホーム部会を中心に年間の事業計画によりネットワークづくりを図っている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時及び入居後も環境の変化による不安を推測し本人及び家族とのコミュニケーションを十分にとり信頼関係づくりに努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時には家族などからできる限り今までの生活の困りごとなどを中心に意見を聞き、少しでも安心して利用ができるように努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの経過の情報収集を十分にし、よりよい生活の支援については本人様やご家族様と話しをし対応している		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを多く取り会話の中でその方の人生感などを知り、残存機能を生かした生活支援をしている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には行事への参加も呼びかけ連携に努め、面会時の情報交換を大切に支援している。しかし面会の少ないご家族に関しては電話連絡を行っているが施設任せの部分もある所がある		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と会う機会は時々であるが馴染みの場所へはドライブ時にその場所へ行くなどし支援している	入居前の見学や家族などからの情報により、利用者の馴染みの場所へドライブに出かけた時、友人や家族に会いに行ったり、電話をかけるなどの支援を行い、これまでのつながりを継続できるようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションが取りやすい様職員が間に入り関わりを持って頂ける様に支援している		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院を理由に退居された時は時々病院へ面会に行くなどし、ご家族との連絡、相談、支援に努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時やサービス担当者会議などで本人の思い、意向、希望を聞き取りケアプランに反映させている。ケアプランには家族の思い、意向、希望も取り入れている	毎日の利用者との関わりの中で、言動や表情を汲み取り思いや意思の確認に努めている。センター方式を活用し、利用者の気持ちの理解に努め、利用者背景・好みや希望の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時本人や家族より情報収集し、入所後も生活歴を会話の中から把握していくよう努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、モニタリング、カンファレンスなどで現状の把握に努めており、職員間でも毎日の申し送りや情報の交換を細かく行っている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回アセスメントにはセンター方式を活用し、状態変化、更新申請、区分変更申請にはアセスメント要約表を使用。サービス担当者会議には本人、家族にも参加してもらいチームで介護計画の作成を行っている	介護計画は、本人や家族の意見を反映させている。関係者で意見交換やモニタリングを繰り返し、アイデアを出し、話し合い作成している。3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況、家族や本人の要望に応じて見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の毎日の記入や、記録をモニタリングにも生かし再アセスメントし、職員間で情報を共有しながらケアを行うと共に介護計画にも生かしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の軽費老人ホームで行っている、お花クラブ、うたクラブ、介護予防レクリエーションなどに利用者様のニーズに応じて参加したり、地域デイへの参加などで、サービスの多機能強化に取り組んでいる		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前楽しみにしていた地域サービスに、入居後も毎月参加し住み慣れた地域の方々とのなじみの関係を継続できる様になっている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事務所の協力医だけではなく、入居前のかかりつけ医を希望されている方もあり3名のDrから訪問診療を受け信頼関係づくりに努めている	本人や家族の希望する、医療機関の受診を支援している。基本的には家族同行の受診だが、家庭の事情など状況に応じて職員が付き添い受診をするなど家族と協力して通院介助を行い、受診結果に関する情報は共有している。かかりつけ医と話し合い、利用者の健康面については、その都度相談し指示を仰いでいる。また、訪問診療に来ていただいている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の日々の体調変化を把握し、看護師及び管理者に相談をし適切な判断で早期対応に努めている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、出来るだけ早期退院や受け入れ易くするために、Drやご家族と今後の方針にむけて話し合いをし、地域医療連携支援室とのよい関係づくりに努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には早い段階から、かかりつけ医やご家族と今後の方向性について話し合い事業所で出来る事、出来ない事を見極めながら看取り支援の体制も整えている	本人や家族の意向を踏まえ、医師や職員、訪問看護等関係者が連携をとり、安心して終末期を過ごしていただき、最期を迎えられるように意志確認を行いながら取り組んでいる。なお、利用契約書に「終末期の意向に関する意向確認書」としての項目の記載があるが、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針がない。	重度化や終末期において事業所が対応し得る支援方法について、関係者で話し合い医療機関とも密に連携を図り、事業者の対応方針を明文化されることが望まれる。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には、家族に報告をし、かかりつけ医の指示のもと対応し、また日頃より職員は応急手当の勉強会やマニュアルのもとに定期的に訓練をし技術力を高めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろんなシュミレーションを行い避難訓練を二ヶ月に一回行っているが地域の消防団以外の地域の方とは電話連絡網はあるが、訓練への参加は今年度より予定している	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を年4回定期的に行っている。また、地域の方の協力で連絡網を作成しており、日頃より地域住民や消防団との連携を図りながら、協力体制の構築に取り組んでいる。災害に備えた備品は隣接施設に準備している。	非常用備品は、事業所内に準備して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や勉強会にて尊厳、権利、言葉使いについては学び大切に支援に努めているが、言葉使いが充分とはいえない対応の時もある	内部研修予定表を年度で作成しており、中でも利用者の“尊重とプライバシーの確保”の徹底を図ることを重要視し、職員の意識向上に取り組み、勉強会を開催している。日々の関わりの中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。全職員は、個人情報保護法について理解しており、対応の徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で本人の希望を尋ねて自己決定できる様な支援に努めている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活リズムを大切に自分のペースでの生活を支援しているが、入浴に関しては職員側の都合で行うことが止むを得ない時が多い		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など本人の好みを選んで頂いている。散髪に関しては馴染みの理容院ではなく、訪問美容を利用している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが夕食作りを職員と行っている。後片付けはほぼ毎日一緒に行っている。	旬の食材や新鮮な物を取り入れた献立について相談しながら、朝・夕食は利用者と職員と一緒に調理している。四季折々の行事に沿った食事をしており、利用者の誕生日当日はケーキを準備し、家族などを招待してお祝いし、夕食は本人の嗜好の献立になっており、他の利用者や職員みんなで祝っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別的に食べやすいような量や硬さを考慮し体重の増加なども気をつけている。また水分を好まれない利用者には好みの飲み物の提供につとめている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い見守り寄り添いにてされている。介助が必要な利用者は職員が行い清潔保持に努めている。週2回の歯科よりの口腔ケアも行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導や排泄チェック表を活用し一人ひとりのトイレでの排泄を心がけている。夜間帯はリハビリパンツを使用でも日中は布パンツに替えていただくなどの支援を行っている。	職員は利用者の排泄のパターンやサインなどをチェックして把握に努め、オムツの使用を減らし、可能な限りトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。トイレを整備して、布パンツを使用している利用者がパットの交換を出来るように職員間で検討し、自立に向けた配慮を行ったことが、利用者の自信回復に繋がっている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便リズムと回数を把握し体調を見ながら緩下剤だけでなくプルーンなど食物繊維の多い食品を提供し便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた入浴の支援をしている	午前・午後とわけゆっくりと入浴して頂いている。拒否がある時は、利用者の意志を尊重している。しかし入浴の時間帯は安全対策にどうしても職員の人数がそろっている時間になっている。	本人の意向、希望にそった入浴の支援を行っている。毎日の入浴も可能で、一人ずつお湯の入れ替えを実施し、気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。入浴拒否の利用者に対しては、信頼されている主治医からの言葉かけとして伝えたり、一緒に出かけ「汗かいたね」と浴室へ誘うなど、タイミングに合わせた入浴の支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での午睡やテレビ視聴・読書などをひとり一人の利用者が好まれる事など把握し支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は個人別に事務所で管理し準備時は服薬チェック表で確認し飲み忘れ、誤薬はない。又、職員は薬情にて一人ひとりの薬の把握を行っている。Drの定期往診時には体調について情報提供をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	うた、お花、介護予防レクなど母体にある地域交流ホールであるクラブ活動やボランティア行事に参加し毎月ドッグセラピーも行っている。家事の生活リハビリはその方に合ったことをされ、ドライブなどの気分転換にも努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	在宅生活で楽しみにしていた地域デイサービスの参加は家族送迎にて続けている方もいる。又買い物や季節感を味わえる場所へ出かけたりしている。時々外食も行っている。	天気、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩や買い物、ドライブに出かけている。隣接施設にあるお地藏様へのお参りは、利用者のほどよい散歩コースになっている。また、「生まれ育った故郷に行きたい」など、利用者本人の希望にそって、普段は遠くに行けない場所でも、職員同士で検討し、実現に向けて取り組んでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金は事務所で個別的に全員ご家族より預かり管理しているが、利用者がお金を持って安心される方は自分で財布を管理し1日何回も出し入れし安心されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時や時々退院後の近況報告なども職員取り次ぎにて行っている。手紙も家族へ時々書かれている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の開閉は利用者が自由に行い外の空気や景色を感じれる様にしている。Dルーム壁面には季節感を感じることができる飾りつけをしている。食事をより落ち着いて味わうことができる様な明るさにしている。	玄関先にベンチを設置し、利用者が涼んだり日向ぼっこをして、居心地よく過ごされている。ホールの壁には、利用者の皆が作成した事業所“ひかり”の貼り絵を飾り、利用者が自分の住んでいる家だと思ってもらえるようにしている。利用者の動線にそった共有空間の配置は、馴染みのある家庭的な雰囲気の温かさを醸しだしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由にくつろげる様なコーナーをリビングの中には2ヶ所作りアルバムや本なども置いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は職員が助言をしながら利用者が少しでも安心し安全な生活で居心地良く暮らせる様に意見交換もしている。	本人が使い慣れた馴染みの家具や道具、飾り物等や家族との写真など思い出の品を持ち込んだり飾ったりしている。居室の空気の入れ替えや室温管理などを適切に行っている。夏場はゴーヤのグリーンカーテンで日差しの対策に取り組むなど、居心地よく安心して過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間も安全に自力でトイレへ行く事ができる様に明るさを確保し、台所・玄関・Dルームも利用者の動きやすさを考えた家具配置にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない